

平成 27 年 度
第 59 回 簿 記 検 定 試 験
1 級 (原価計算)

問 題 用 紙

(制限時間 1 時間30分)

(平成27年12月13日施行)

受験上の諸注意

- ・ 答案はすべて答案用紙に記入すること。
- ・ すべての答案用紙に受験番号を記入すること。
- ・ 赤字で記入すべきところは赤インク、赤鉛筆を用いること。
- ・ その他答案の作成にあたっては、教科書に基づき日頃
学校で指導を受けている記帳の方法によって、正確・
迅速・整然と記帳すること。

佐賀県高等学校教育研究会商業部会主催

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現金	当座預金	売掛金	製品
仕損品	第1工程半製品	素材	建物減価償却累計額
売上	売上原価	減価償却費	棚卸減耗費
製造	A組製造	B組製造	第1工程製造
第2工程製造	製造間接費	組間接費	材料消費価格差異
賃率差異	本社	工場	仕損費

(1) 月末における素材の帳簿棚卸高は900個 @¥750であり、実地棚卸高は880個 @¥750であった。よって素材勘定を修正した。

(2) 会計期末にあたり、賃率差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、賃率差異勘定の前月繰越高は¥2,000(借方)であり、当月の賃金の実際消費高は予定消費高より多く、この差額の¥1,500は賃率差異勘定に振り替えられている。

(3) 工場会計が独立している佐賀工業株式会社の本社は、決算にさいし、建物の減価償却費¥1,820,000を計上した。ただし、このうち¥1,270,000は工場の建物に対するものであり、建物減価償却累計額勘定は本社にのみ設けてある。(本社の仕訳)

(4) 単純総合原価計算を採用している鳥栖製作所は、かねて製品2,000個を @¥3,500で掛け売りしていたが、本日、そのうち40個が返品されたので、売上高および売上原価を修正した。なお、この製品の原価は @¥2,450である。

(5) 補修指図書#104-1に集計された製造原価¥40,000を仕損費勘定に計上していたが、本日、補修が完了したので製造指図書#104に賦課した。

(6) 株式会社神埼製作所は、月末にあたり、工程別総合原価計算表を作成し、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。なお、第1工程の完成品はすべて第2工程(最終工程)に引き渡している。

第1工程 ¥495,000 第2工程 ¥736,000

(7) 組別総合原価計算を採用している多久製作所は、組間接費¥600,000を次の製造直接費を基準にA組とB組に配賦した。

直接材料費 A組 ¥240,000 B組 ¥163,000
直接労務費 A組 ¥260,000 B組 ¥137,000

2 次の資料により、単純総合原価計算表を完成しなさい。

ただし、i 素材の消費高の計算には、予定価格法を用いている。

ii 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

iii 月末仕掛品の計算は、先入先出法による。

製 造		資 料
前月繰越 124,000	製 品 ()	a. 月初仕掛品 200個(加工進捗度50%)
素 材 ()	次月繰越 ()	¥124,000
工場消耗品 80,000		(うち、素材費 ¥76,000 加工費 ¥48,000)
賃 金 700,000		b. 当月製造費用(一部)
給 料 105,000		①素 材 当月実際消費数量 7,360個
健康保険料 35,000		予定価格 @¥125
減価償却費 ()		実際価格 @¥130
電 力 料 ()		②減価償却費 年間見積高 ¥408,000
雑 費 23,000		③電 力 料 当月支払高 ¥102,000
2,136,000	2,136,000	当月測定高 ¥115,000
		c. 月末仕掛品 500個(加工進捗度40%)
		d. 完成品数量 2,000個

3 (1) 次の各文の()のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。

- a. せっけんの製造において発生するグリセリンのように、製造工程から必然的に発生する二次的産物を(ア)という。この二次的産物を、見積売却価額などにもとづいて評価した場合は、製品を製造するために要した(イ)から控除する。
- b. 自動車製造業におけるタイヤや計器など、外部から購入した材料で、加工されずにそのまま取り付けるだけで製品の一部となるものを(ウ)という。この消費高は素材費とともに、ふつう(エ)に分類される。

【語群】

- | | | | |
|----------|---------|----------|--------|
| 1. 間接材料費 | 2. 買入部品 | 3. 工場消耗品 | 4. 副産物 |
| 5. 直接材料費 | 6. 作業くず | 7. 製造原価 | 8. 加工費 |

3 (2) 次の貸借対照表(一部)と資料から、製造原価報告書ならびに損益計算書(一部)の(ア)～(エ)に入る金額を求めなさい。

貸借対照表(一部)			
平成○年/2月31日			
製 品	2,340,000	未払賃金	132,000
材 料	400,000		
仕 掛 品	420,000		
資 料			
①素 材	期首商品棚卸高	¥	315,000
	当 期 仕 入 高	¥	2,085,000
②工場消耗品	期首商品棚卸高	¥	105,000
	当 期 仕 入 高	¥	695,000
③賃 金	前 期 未 払 高	¥	77,400
	当 期 支 払 高	¥	1,988,400
④給 料	当 期 消 費 高	¥	307,000
⑤仕 掛 品	期 首 棚 卸 高	()	
⑥製 品	期 首 棚 卸 高	¥	2,240,000

製造原価報告書			
平成○年/月/日から平成○年/2月31日まで			
I 材料費	(	ア	)
II 労務費	(	イ	)
III 経 費		2410,000	
当期製造費用	(		)
期首仕掛品棚卸高	(		)
合 計		8,021,000	
期末仕掛品棚卸高	(		)
当期製品製造原価	(	ウ	)

損 益 計 算 書(一部)			
平成○年/月/日から平成○年/2月31日まで			
I 売上高		17,000,000	
II 売上原価	(		)
売上総利益	(	エ	)

4 小城製作所は、個別原価計算を採用し、A製品(製造指図書#1)とB製品(製造指図書#2)を製造している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) /月中の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 第1製造部門費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 部門費振替表を直接配賦法によって完成しなさい。
- (4) A製品(製造指図書#1)の原価計算表を完成しなさい。

ただし、i 前月繰越高は次のとおりである。

素 材	850個 @¥1,260	¥1,071,000
工場消耗品	200ヶ ッ 420	¥ 84,000
賃金(未払高)		¥ 318,000
仕 掛 品(製造指図書#1)		¥1,832,000(原価計算表に記入済み)

- ii 素材の消費高の計算は移動平均法、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき ¥1,750 の予定賃率を用いている。
- iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額(予算額)	¥7,740,000	¥6,408,000
年間予定直接作業時間(基準操業度)	10,320時間	7,200時間

v 製造間接費勘定を設けている。

取 引

/月 8日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	2,550個 @¥1,180	¥3,009,000
工場消耗品	950ヶ ッ 420	¥ 399,000

/3日 B製品(製造指図書#2)の注文を受け、素材2,800個を消費して製造を開始した。

23日 製造経費を次のとおり小切手を振り出して支払った。

電 力 料	¥608,000	保 険 料	¥312,000
雑 費	¥ 27,000		

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃 金 総 額	¥4,946,000
うち、控 除 額	所 得 税 ¥502,000 健康保険料 ¥378,000

- 3/日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は300個であった。よって、消費高を計算した。(間接材料)
- ② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。
- 製造指図書#1 1,600時間 製造指図書#2 1,000時間 間接作業150時間
- ③ 健康保険料の事業主負担分 ¥378,000 を計上した。
- ④ 当月の製造経費消費高を次のとおり計上した。

電 力 料	¥612,000	保 険 料	¥270,000
減価償却費	¥243,000	雑 費	¥ 37,000

⑤ 当月の直接作業時間は次のとおりであった。よって、製造部門費を予定配賦した。

	第1製造部門	第2製造部門
製造指図書#1	480時間	1,120時間
製造指図書#2	620時間	380時間

⑥ 製造間接費を次の部門費配分表によって各部門に配分した。

部 門 費 配 分 表						
平成○年/月分						
費 目	配賦基準	金 額	製造部門		補助部門	
			第1部門	第2部門	動力部門	工場事務部門
部門費合計		2,159,500	647,700	971,800	324,000	216,000

⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門
動 力 部 門 費	kW数×運転時間数	15kW×400時間	20kW×500時間
工場事務部門費	従業員数	5人	11人

- ⑧ A製品(製造指図書#1)160個が完成した。
- ⑨ 当月の賃金実際消費高を計上した。なお、当月の賃金未払高は ¥306,000 である。
- ⑩ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。
- ⑪ 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

1

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		

受験番号	□

2

単純総合原価計算表			
平成○年/2月分			
	素 材 費	加 工 費	合 計
当 月 製 造 費 用			
材 料 費			
労 務 費			
経 費			
計			
月 初 仕 掛 品 原 価			
計			
月 末 仕 掛 品 原 価			
完 成 品 原 価			
完 成 品 数 量	2,000個	2,000個	2,000個
製 品 単 価	@ ¥	@ ¥	@ ¥

3

(1)	ア		イ		ウ		エ	
(2)	ア	¥	イ	¥	ウ	¥	エ	¥

受験番号	②	③

4

(1)

		借	方	貸	方
/月8日					
/3日					
23日					
25日					
3/日	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
	⑦				
	⑧				
	⑨				
	⑩				
	⑪				

受験番号 ④(1)

4

(2)

第 / 製造 部 門 費

(3)

部 門 費 振 替 表

直接配賦法

平成○年 / 月分

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第1部門	第2部門	動力部門	工場事務部門
部 門 費 合 計						
動 力 部 門 費	kW数×運転時間数					
工場事務部門費	従 業 員 数					
配 賦 額 合 計						
製造部門費合計						

(4)

製造指図書# /

原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配 賦 率	金 額	摘 要	金 額
1,152,000	350,000	第1	440	750	330,000	直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	160個
						製品単価	¥

受験番号

④(2)(3)

総 得 点

平成 27 年 度
第 59 回 簿 記 検 定 試 験
1 級 (原価計算)

採 点 基 準

(平成27年12月13日施行)

1

	借 方	貸 方
(1)	棚 卸 減 耗 費 15,000	素 材 15,000
(2)	売 上 原 価 3,500	賃 率 差 異 3,500
(3)	工 場 減 価 償 却 費 1,270,000 550,000	建物減価償却累計額 1,820,000
(4)	売 上 品 140,000 98,000	売 掛 金 140,000 売 上 原 価 98,000
(5)	製 造 40,000	仕 損 費 40,000
(6)	製 品 736,000 第 2 工 程 製 造 495,000	第 2 工 程 製 造 736,000 第 1 工 程 製 造 495,000
(7)	A 組 製 造 375,000 B 組 製 造 225,000	組 間 接 費 600,000

(2)

第 / 製 造 部 門 費

※ 1/31 製造間接費	647,700	1/31 製 造	825,000
〃 諸 口	189,000	〃 製造部門費配賦差異	11,700
	836,700		836,700

(3)

部 門 費 振 替 表

直接配賦法

平成〇年 / 月 分

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第 1 部門	第 2 部門	動力部門	工場事務部門
部 門 費 合 計		2,159,500	647,700	971,800	324,000	216,000
動 力 部 門 費	kW数×運転時間数	324,000	121,500	※ 202,500		
工 場 事 務 部 門 費	従 業 員 数	216,000	67,500	148,500		
配 賦 額 合 計		540,000	※ 189,000	351,000		
製 造 部 門 費 合 計		2,159,500	836,700	1,322,800		

(4)

製造指図書 # /

原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配 賦 率	金 額	摘 要	金 額
1,152,000	350,000	第 1	440	750	330,000	直接材料費	1,152,000
	2,800,000	第 1	480	750	360,000	直接労務費	3,150,000 ※
	3,150,000	第 2	1,120	890	996,800	製造間接費	1,686,800
					1,686,800	製造原価	5,988,800
						完成品数量	160個
						製品単価	¥ 37,430

受験番号	④ (2) (3) (4)	総 得 点
	※ 4 点 × 4 = 16 点	100 点

受験番号	①
	4 点 × 7 = 28 点

2

単純総合原価計算表

平成〇年/2月分

	素 材 費	加 工 費	合 計
当月製造費用			
材料費	※ 920,000	80,000	1,000,000
労務費		※ 840,000	840,000
経費		172,000	172,000
計	920,000	※ 1,092,000	2,012,000
月初仕掛品原価	76,000	48,000	124,000
計	996,000	1,140,000	2,136,000
月末仕掛品原価	200,000	※ 104,000	304,000
完成品原価	※ 796,000	1,036,000	1,832,000
完成品数量	2,000個	2,000個	2,000個
製品単価	@ ¥ 398	@ ¥ 518	@ ¥ ◎ 916

3

(1)	ア	4	イ	7	ウ	2	エ	5
(2)	ア	¥ 2,800,000	イ	¥ 2,350,000	ウ	¥ 7,601,000	エ	¥ 9,499,000

4

(1)

	借 方	貸 方
1月8日	素 材 費 3,009,000 工場消耗品 399,000	買 掛 金 3,408,000
13日	製 造 3,360,000	素 材 3,360,000 ※
23日	電 力 料 608,000 保 險 料 312,000 雑 費 27,000	当 座 預 金 947,000
25日	賃 金 4,946,000	所 得 税 預 り 金 502,000 健康保険料預り金 378,000 当 座 預 金 4,066,000
31日	① 製 造 間 接 費 357,000	工 場 消 耗 品 357,000 ※
	② 製 造 間 接 費 4,550,000 製 造 間 接 費 262,500	消 費 賃 金 4,812,500 ※
	③ 製 造 間 接 費 378,000	健 康 保 険 料 378,000
	④ 製 造 間 接 費 1,162,000	電 力 料 612,000 保 險 料 270,000 減 価 償 却 費 243,000 雑 費 37,000
	⑤ 製 造 2,160,000	第1製造部門費 825,000 第2製造部門費 1,335,000 ※
	⑥ 第1製造部門費 647,700 第2製造部門費 971,800 動力部門費 324,000 工場事務部門費 216,000	製 造 間 接 費 2,159,500
	⑦ 第1製造部門費 189,000 第2製造部門費 351,000	動 力 部 門 費 324,000 工 場 事 務 部 門 費 216,000
	⑧ 製 品 5,988,800	製 造 5,988,800 ※
	⑨ 消 費 賃 金 4,934,000	賃 金 4,934,000
	⑩ 賃 率 差 異 121,500	消 費 賃 金 121,500
	⑪ 製造部門費配賦差異 11,700 第2製造部門費 12,200	第1製造部門費 11,700 製造部門費配賦差異 12,200 ※

受験番号	②	③
	※ 3点×5=15点 ◎ 1点×1=1点	2点×8=16点

受験番号	④(1)
	※ 4点×6=24点